



名古屋城天守閣
木造復元への寄附

金シャチ募金

募集中

名古屋城天守閣寄附金

戦災により惜しくも焼失してしまった名古屋城天守閣の木造復元を進め、寄附金の受け皿「名古屋城天守閣積立基金」を設置しました。

基金の趣旨にご賛同いただき、格別の御支援を賜りますようお願いいたします。

寄附の方法

①メッセージカード付きの募金箱「10縁募金」

→市内16区役所や支所、名古屋城内にて受付

②さまざまな特典がある「納付書・インターネット利用」寄附

→インターネットを利用クレジットカード決済寄附

→市内16区役所や支所、名古屋城内に設置した納付書を利用し

銀行・郵便局にて寄附

名古屋城公式サイト
金シャチ募金

検索

さらに魅力を増す名古屋城の施策を紹介

ほかにも色々

名古屋城本丸御殿完成公開

6/8金公開

名古屋城本丸御殿が10年の工事を経て、2018年6月8日に完成公開を迎えます。

「名古屋城本丸御殿」は、尾張藩主の住居かつ藩の政庁として、1615年に徳川家康の命によって建てられた、武家風書院造の建造物で、総面積3,100㎡、木造平屋建こけら葺き書院造、13棟の建物で構成されています。

1930年には天守閣と共に、城郭として国宝第一号に指定されたものの、1945年の空襲により建物の全てを焼失。しかし幸いにも焼失を逃れた、1049面の障壁画、309枚の実測図、約700枚の写真、約2000個の礎石など、他に例を見ないほどの豊富な史料が保管されており、様々な分野の専門家の協力を得て2009年1月から待望の復元工事に着手。江戸幕府将軍が宿泊するために建造された最も豪華絢爛な「上洛殿」などの完成をもって、10年をかけた復元工事を終え公開します。

名古屋文化の原点ともいえる「名古屋城本丸御殿」は、木曾の森で数百年の時を刻んだ木曾ヒノキを使用するなど、原則として旧来の材料により再現している他、復元により伝統技術や技法を受け継ぐとともに先人の技や知恵を未来へと継承していきます。




尾張名古屋のうまいもの街
「金シャチ横丁」

3/29金開業



正門側(義直ゾーン)

●営業時間／午前10時30分～名古屋城開場30分後まで

来る3月29日(木)、名古屋城正門側と東門側に「金シャチ横丁」がオープンします。

正門側は伝統薫る「義直ゾーン」。定番・老舗のなごやめしが楽しめる飲食テナントとお土産を販売する物販テナント、合わせて12店舗が集結。

東門側、新風が吹く「宗春ゾーン」では、名古屋の新しい食文化を推進する飲食テナント7店舗がお待ちしております。



東門側(宗春ゾーン)

●営業時間／午前10時30分～午後10時30分

特別陳列

名古屋城
—巨大天守の歴史と未来—
の開催について

名古屋城天守の歴史をたどり、規模や構造、金鯱の巨大さなどにおいて、日本城郭史の中で極めて重要な存在であったことを振り返ります。そして、木造復元の根拠となる実測図や古写真などを展示し、資料の豊富さを紹介します。

会期

2月25日(日)まで
会期中無休 午前9時～午後4時30分
(天守閣入場は午後4時まで)

会場

名古屋城天守閣2階 企画展示室

観覧料

無料(ただし名古屋城入場料は必要)



御天守鯱
木地仕口寸尺図面
(名古屋城蔵)

焼失前の名古屋城
(名古屋城総合事務所蔵)

名古屋城天守の歴史

名古屋城

天守閣

木造復元

進行中

名古屋城は、1610年、尾張徳川家の居城として築城が開始されました。築城は徳川家康の命により諸大名を動員した、「天下普請」として行われました。

石垣普請(土木工事)は、西国を中心とした20の大名に割り当てられ、なかでも天守台石垣は、石垣づくりの名手とされる加藤清正が担当。

作事(建築工事)は、家康の信頼が厚かった中井正清が指揮をとり、1612年に五層五階地下一階、層塔型、日本最大級の大・小天守が完成しました。

尾張徳川家の歴史と共に歩んできた名古屋城天守は、明治維新後、陸軍省、宮内省の所管を経て、1930年、名古屋市に下賜されました。喜ばしいことに、同年、名古屋城天守は、本丸御殿などの建造物と共に城郭として初めて国宝に指定されました。また、名古屋市は、それまで許されていなかった城の一般公開を実現し、多くの市民が足を運んだと言われています。

しかし、1945年。太平洋戦争における空襲により、天守や本丸御殿などの主要な建造物は惜しくも焼失してしまいました。

現在の天守閣は、再建を望む声の高まりによって、1959年に再建されたものです。

鉄骨鉄筋コンクリート、耐震耐火構造、エレベーター付、空調も完備。博物館機能を備えた、誰もが楽しめる近代的な建物。

名古屋のシンボルとして、長く市民の皆様に親しまれてきました。そんな名古屋城天守閣が、いま、転機を迎えています。

豊富な資料による木造復元

現在の名古屋城天守閣は、再建から半世紀が経過し、設備の老朽化や耐震性の確保などの問題が発生しています。そのような課題を克服するとともに、特別史跡名古屋城跡の本質的価値の理解を促進するため、『金城温古録』や「昭和実測図」「ガラス乾板写真」など、現代に残された豊富な資料に基づく天守閣の木造復元を進めています。

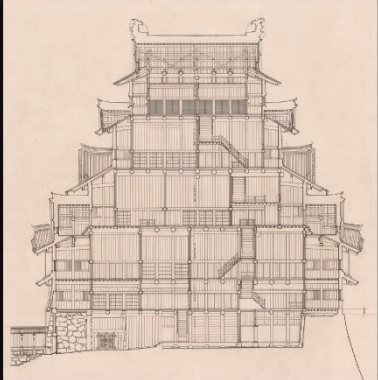
金城温古録



きんじょう こん ころく

尾張藩士・奥村得義(かつよし)(1793～1862)とその養子・定(さだめ)(1836～1918)が編集した、名古屋城の百科事典ともいえる資料。10編64巻にも及ぶこの『金城温古録』を紐解くことによって、江戸時代の名古屋城を知ることができます。

昭和実測図



しやう わ じつ そく ず

天守をはじめとした城内の国宝建造物を細部まで計測し、記録した図面。名古屋市の事業として、1932年から1952年にかけて作成されました。大天守は56枚、小天守は15枚残されています。

ガラス乾板写真



かん ばん しゃ しん

名古屋城には、焼失前の天守や本丸御殿の姿を知ることができる、700枚を超える乾板写真が残されています。

ご意見・問い合わせ先

天守閣木造復元へのご意見をお寄せください。

●天守閣の整備工事について……………名古屋城総合事務所整備室

●バリアフリーなど観覧環境について ……同整備室

●収支計画、広報について……………ナゴヤ魅力向上室

☎ 231-2481 FAX 218-5335

☎ 231-2488 FAX 201-3646

☎ 972-2226 FAX 972-4199

✉ a2311700@kankobunkakoryu.city.nagoya.lg.jp

✉ a2311700@kankobunkakoryu.city.nagoya.lg.jp

✉ a2406@kankobunkakoryu.city.nagoya.lg.jp

この特集号は

古紙・パルプを含む

再生紙を使用しています。